



君に届け

カラー版やバックナンバーは「ホームページ」で検索

令和8年2月16日
校長 菊川 靖浩
熊本市西区小島8丁目 17-1
TEL 329-2792
FAX 329-2817

<日本語の奥深さ>

佐藤俊幸「覚えざるに」より

雲や風には、「おぼろ雲」「入道雲」「いわし雲」「飛行機雲」「羊雲」「あかね雲」「春一番」「東風」「つむじ風」「空っ風」「そよ風」「木枯らし」など多くの言い方がありまます。それだけ我々日本人にとって雲や風が生活と密接にかかわっていて、雲や風の微妙な違いを表現するために、日本語の表現が多彩になっていったのではないのでしょうか。



見方や考え方が広がると、それを表現するには多くの言葉が必要になります。しかし、見方や考え方が発達していないときは選択する言葉は限られます。一時期よく「微妙」という言葉が使われていました。質問をしても返ってくる言葉は全て「微妙…」。

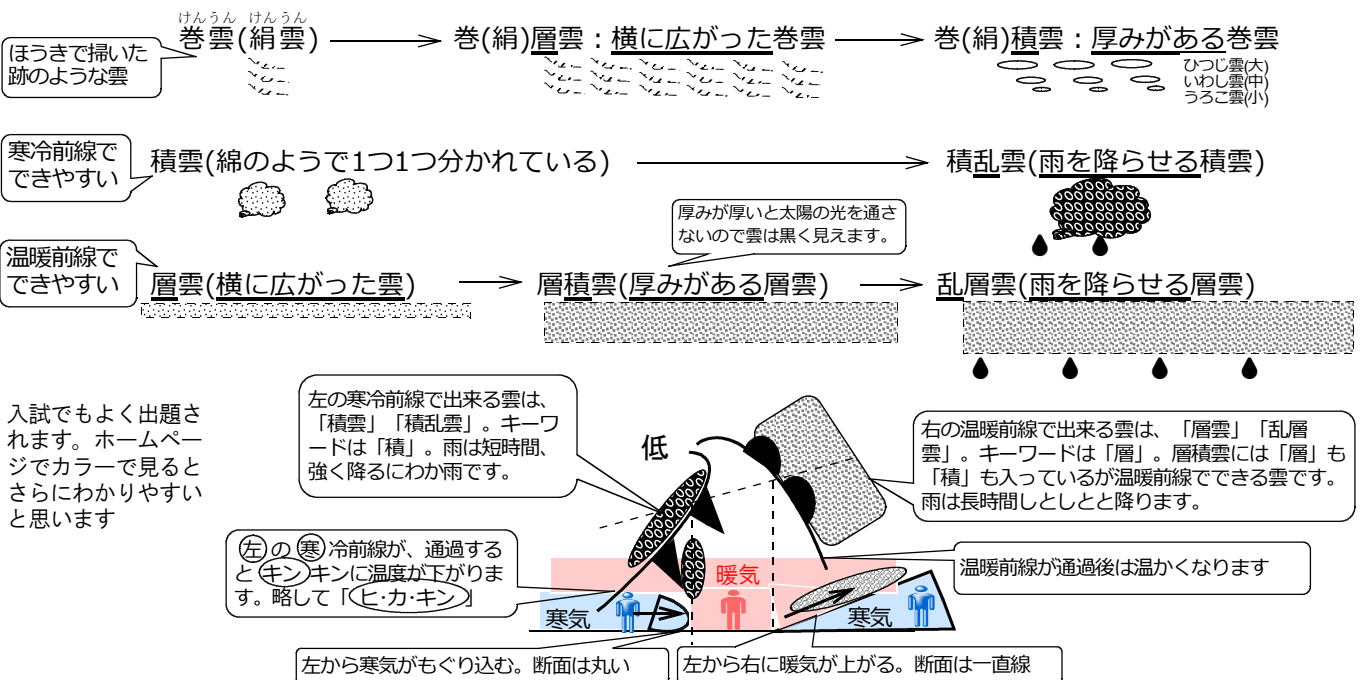
自分の気持ちを面倒くさがって正確に伝えようとしなかったり、適切な言葉が分からないときに使う言葉です。また、「ウザイ」という乱暴な言葉があります。子どもたちに、「ウザイ」と「うるさい」はどう違うのか尋ねると、「ウザイ」の中には、「うるさい」という意味もあるが、「邪魔だ」「消えろ」という感じが強いというのです。つまり、「うるさい」という言葉は、さわりだり、しゃべったりしている行為そのものに対して向けられる言葉ですが、「ウザイ」は相手の人格、存在そのものを否定している言葉です。子どもたちも、そのことをある程度は自覚していますが、それでも口に出してしまうこともあるようです。

「ウザイ」という言葉をよく口にする子どもは、何かイライラしています。何でもない友達のささいな言動に腹をたてます。なぜでしょうか。「ウザイ」という言葉を頻繁に口にする事で、ものの見方が否定的になっていくのだと思います。「ムカツク」や「キモイ」などの言葉を多く使う場合も同様のことがいえるでしょう。

逆に「ありがとう」という言葉をよく口にする子どもは、何気ない友達の行為や思いやりに敏感で、感謝の心も高まっていきます。自分に対して言われた言葉でなくても、聞くだけでいい気持ちになります。どうせ使うなら、気持ちのいい言葉を使っていきたいものです。

ちょっと理科のお勉強。2年生はもうすぐ習うはず…

雲は主に、ほうきで掃いた跡のような巻雲(絹雲)、厚みがあって1つ1つ分かれている積雲、空を覆うほど横に広い層雲の3つ。この雲が雨を降らせるようになると「乱」をつけます。今、外に見える雲は下のどれに近いですか？



熊本県農業協同組合中央会主催による「第50回お米とわたし」作文・図画コンクール、作文の部において、1年生の吉岡皇成さんが優良賞を受賞いたしました。表彰は修了式の日に行います。吉岡さん、おめでとうございます。

